北海道日米協会

報告書

第 1 回 北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」

2016 年 11 月 13 日（日）

はじめに

2016 年 11 月 13 日（日）に、北海道日米協会の主催による第 1 回 北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」が札幌国際ビルを会場に開催されました。

本大会では、これまでに北海道日米協会が主催してきた日米交流企画の成果を継承し、道内の高校生・大学生や日米協会会員によるワークショップ形式の討論会が行われました。日米の親善と交流を目的としたこの討論会では「世界から見た日米関係とその過去、現在、未来」をテーマとし、参加者が様々なバックグラウンドを持つ他の参加者達との討論の中で多様な意見を聞き、発言することで、各々が見識を広げ、また日本と米国との関係性への理解や興味を深めてゆく機会を用意することができました。

討論はどのグループでも熱心に行われ、休憩時間にも討論が続いていた参加者も多く見られました。大会後は、普段は交流することのない人達との討論の機会に喜び、次の開催を望む声が多く聞こえてきており、日米の親善と交流の目的を果たし、これからに繋がる大きな成果となりました。

ここに、第 1 回 北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」の成果と交流の思い出をまとめ、ご報告させていただきます。

日米協会及び、共催・後援・協賛頂いた企業・団体の今後ますますの発展と、日米の相互理解・交流が深まることを祈念しますとともに、この度のユースフォーラムにご参加頂いた皆様、またその成功にご尽力頂きました関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

第 1 回 北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」実行委員会

北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」
共催：ＨＩＥＣＣ（公益法人　北海道国際交流・協力総合センター）
後援：在札幌米国総領事館、伊藤組 100 年記念基金
協賛：北海道コカ・コーラボトリング株式会社、石屋製菓株式会社、株式会社ロイズコンフェクト、
サッポロビール株式会社、株式会社いまい、北海道物産株式会社

開催概要

第１回 北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」は 2014 年９月に開催された「第９回日米協会国際シンポジウム札幌・北海道大会」で行われた道内の高校生、大学生と日米協会会員が日米の親善と交流をテーマに国内外から「札幌スタイル」と高い評価をいただいたワークショップ形式の討論会の精神を継承する目的で開催されました。

このユースフォーラムの討論会では、議論のまとめや結論等の総括報告を求めるものではなく、各グループのモデレーターの進行のもとで参加者が自由闊達な討論と様々な意見を聞き、それぞれの見聞や見解を拡げ、深めることを成果目標とされました。

本大会には道内の高校や大学などから学生 50 名以上に、在札幌米国総領事や学校教諭、日米協会会員などを加え、合計約 100 名が参加しました。

企画名：　北海道日米協会「国際ユースフォーラム・札幌大会」
　　英文：International Youth Forum in Sapporo
開催日：　2016 年 11 月 13 日（日）
会　場：　札幌市中央区北４条西４丁目１番地 札幌国際ビル８階　国際ホール
テーマ：　世界から見た日米関係とその過去、現在、未来
参　加：　全体登録者数 102 名
開　催：　北海道日米協会
共　催：　ＨＩＥＣＣ（公益法人　北海道国際交流・協力総合センター）
後　援：　在札幌米国総領事館、伊藤組 100 年記念基金
協　賛：　北海道コカ・コーラボトリング株式会社、石屋製菓株式会社、
　　株式会社ロイズコンフェクト、サッポロビール株式会社、
　　株式会社いまい、北海道物産株式会社

プログラム

開会挨拶
　　御手洗 昭治（北海道日米協会専務理事）

基調講演
　　エリック・ジョンストン氏（ジャパンタイムズ 次長）
　　「Finding Your Own Japan, Finding Your Own America」
　　異文化理解を中心とした講演

主催者挨拶
　　藤田 道子（北海道日米協会副会長）

討論会（グループディスカッション）
　　テーマ「世界から見た日米関係とその過去、現在、未来」
　　参加者が 8 グループに分かれ、モデレーターの進行の下に討論

ディスカッション報告会
　　各グループの代表による、ディスカッション内容の報告

在札幌米国総領事のご挨拶
　　レイチェル・ブルネット-チェン首席領事

大会総括
　　小笠原 はるの（「国際ユースフォーラム・札幌大会」実行委員会　副実行委員長）

閉会挨拶
　　布施 正樹（「国際ユースフォーラム・札幌大会」実行委員会　実行委員長）

御手洗 昭治
北海道日米協会
専務理事

エリック・ジョンストン
ジャパンタイムズ 次長

藤田 道子
北海道日米協会
副会長

グループディスカッション

レイチェル・ブルネット-チェン
首席領事

小笠原 はるの
副実行委員長

布施 正樹
実行委員長

基調講演

基調講演では、日本に拠点を置く国際ジャーナリストであるジャパンタイムズ次長 エリック・ジョンストン氏をお招きし、自身の国際体験を元にした異文化理解についての講演をしていただきました。

ジョンストン氏は、講演後のグループディスカッションでも各グループを周り、学生たちとの討論にも熱心に参加しておられました。

学生による質問

学生による質問

エリック・ジョンストン

英字新聞ジャパンタイムズ大阪支局次長

1997 年から英字新聞ジャパンタイムズ大阪支局次長を務める。
ローカルニュースの他、日本の社会・政治面や日米問題などの特集記事の執筆を中心に活動している。
紙面の他、BBC（英国）や NPR（米国）などへのラジオ出演、大阪のテレビ番組への出演などでも活躍。

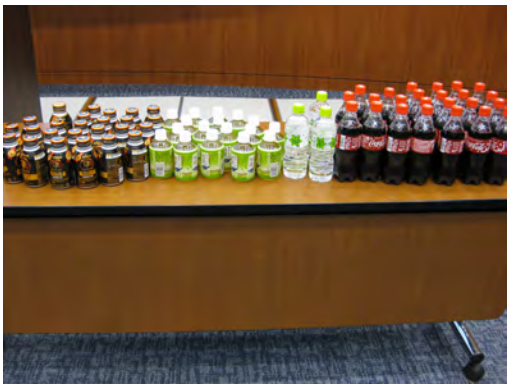
グループディスカッション

「日米関係とその過去、現在、未来」をテーマとした本大会のグループディスカッションでは、参加者が「英語のみ」を使うグループ、「英語と日本語両方」を使うグループ、そして「日本語のみ」を使うグループに分かれ、前半 50 分、後半 40 分の討論を行いました。

各グループ 10 名前後で 8 グループに分けられた参加者たちは、進行役であるモデレーターのもと、どのグループも時間いっぱい熱心に議論をしていました。

ディスカッションには、北海道日米協会の会員の他、基調講演をされたジョンストン氏、在札幌領事館からブルネット-チェン首席領事やビーズリー広報・文化交流担当領事、首席領事のご主人なども参加され、学生たちとの交流を楽しんでおられました。

クッキー休憩



ディスカッション報告会

学生参加者による感想

- 普段意見を交換することがないような人たちと交流し、ディスカッションを持てたことが、現在様々な事柄についてよく考え、自分の意見をもつ心がけにつながりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。より気軽にこういったディスカッションを持てる環境になることを祈っております。（札幌国際情報高等学校 3 年生）

- 色々な方々とたくさん意見交換をしたことで、日米関係についての興味がさらに高まりました。これを機に今後どのようにしてアメリカと付き合っていくのかということを頭に置き、より良い関係となるように私自身も身近な所から始めていきたいです。（札幌聖心女子学院 3 年生）

- 私は今回、初めて参加させていただきました。（中略）私はアメリカという国が大好きなのですが、今回のフォーラムを経てもっとアメリカについて知りたくなりました。また、もっと英語を勉強し、上達させていきたいと非常に感じました。このような大会に参加できましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。また機会がありましたら是非参加させていただきたいです。よろしくお願い致します。（札幌聖心女子学院 3 年生）

- 初めのパワーポイント（*ジョンストン氏の基調講演）がとても分かりやすかったです。実際にアメリカ人が思っていることを教えてくださるのは貴重なことで、（中略）とてもおもしろいことをきけて、嬉しかったです。
（ディスカッション報告会にて）最後に発表するのは緊張しましたが、沢山の人がほめて下さって嬉しかったです。ありがとうございました！（札幌聖心女子学院 3 年生）

- 普段あまり考えない「日米関係」を考えるきっかけとなった。自分は日米の過去について何も知らないということに気づくことができた、とても良い機会になった。来年も参加できれば、もっと勉強して参加したい。（札幌国際情報高等学校 2 年生）

- 今回は、貴重な機会をお与えいただき、誠にありがとうございました。ディスカッションを通じて、「日米関係」や英語でのコミュニケーションを見直す必要性に気づかされました。　今回の経験を今後の活動に生かしていきたいと思います。 また御縁がありましたら、次回も参加したいと考えております。（札幌国際情報高等学校 2 年生）

- フォーラムでは、インターナショナルスクールの生徒とも交流することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、このフォーラムをきっかけに、今まで以上に日米の政治や経済について興味を持つことができ、良かったです。（札幌国際情報高等学校 3 年生）

大会後 ー 歓迎レセプション

ユースフォーラムが成功裏に終わった後、京王プラザホテル札幌にて北海道日米協会によるエリック・ジョンストン氏の歓迎レセプションが行われました。

歓迎会には在札幌領事館から首席領事もご出席なされ乾杯の音頭をとっていただき、またジョンストン氏には歓迎会でも講演をしていただきました。